

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211N203	保健学 (学校保健を含む) Health Sciences (Including School Health)	専門教育科目 健康科学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	後	金・3	加隈哲也、原田千鶴、三重野英子、脇幸子、幸松美智子、猪俣理恵、岩本祐一、金崎理子 内線 5033 kakuma@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

「健康」という定義は奥深く、曖昧なものである。単に、疾病の裏返しといった視点ではなく、健康に関連する文化的・社会的背景を学ぶことも重要である。「病気」ならびに「健康」に社会がどう対応してきたか、また対応すべきかを考える。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 「病気」や「健康」が、生物的・化学的・物理的要因からだけでなく、社会的にも構築されている実態を説明できる	○			○	○		

【授業の内容】

1	オリエンテーション、保健医療における性に関わる諸問題
2～3	学校保健の基本、学校保健における健康課題と対策
4～5	産業保健の基本、産業保健における健康課題と対策
6～7	健康危機管理、災害と保健活動
8	正常と異常の概念、優生学、スティグマとしての病
9	子育ての現状 (親業・育児不安・虐待など)
10	健康や病いの要因とヘルスケアシステムの変遷
11	共生社会実現へのチャレンジ
12	病人役割、病気行動、病の語り、医療者－患者関係
13	近年の精神保健に関する様々な課題
14	薬害・健康被害の歴史と保健活動
15	講義全体のまとめ

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	穴埋め資料、小テスト、自己評価票	適宜、協同学習の技法を取り入れる。話し合いの技法として、Think-Pair-Shareを用いる。問題解決の技法として、Case Studyを用いる。実務経験者がオムニバス形式で講義する。
B：意見の表現・交換	○	Think-Pair-Share、質疑応答	
C：応用志向	○	Case Study	
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	教科書などを用いて、次回の学習内容について予習する (12h)。
事後学修	配布資料や教科書および参考書を用いて授業で学習した内容を復習する (12h)。

【教科書】特に指定なし

【参考書】医療情報科学研究所(編集)：「公衆衛生がみえる」、メディックメディア。

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1
随時小テスト	20%	○
期末試験	80%	○

【注意事項】

【備考】

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	医師（産業医）、看護師、保健師	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	学生や職員の定期健康診断の実務、ならびに、健診データを用いて研究発表するとともに保健指導を実践した経験から、学校保健、産業保健について講義する。看護学科の各領域の教員が、各専門領域の立場や視点から保健学に関する講義を行う。	
授業形態	対面授業	